

〈共通論題：グローバル金融とガバナンス〉

## 会計・監査・ガバナンスの一体改革での課題

青山学院大学 八田 進二

証券・資本市場を取り巻く環境要因としての主要な課題は、「グローバル化への対応」と「健全なガバナンスの構築」であろう。加えて、かかる市場の信頼性を確保するためのインフラとして、国際的にも信頼しうるディスクロージャー制度が担保されていることが不可欠である。

21世紀の幕開けに露呈した、米国におけるエンロン社の会計不正事件に端を発したディスクロージャー制度改革では、会計上の課題、監査上の課題、そしてコーポレート・ガバナンス上の課題を克服するための施策が講じられたのである。つまり、まず第1の会計上の課題としては、企業の財務情報作成にかかる会計基準のあり方ないしはその内容について、IFRS(国際会計基準)の導入をも射程においた問題が検討されたのである。第2の監査上の課題としては、監査人の独立性、監査基準の設定主体等の問題が対象とされたのである。そして、第3のコーポレート・ガバナンス上の課題としては、企業経営者の責任明確化および企業内部の管理体制の強化を念頭に置いた内部統制報告制度の導入等が図られたのである。

こうした会計・監査およびコーポレート・ガバナンス三位一体の改革こそ、健全なディスクロージャー制度の構築にとっての根幹をなすものであることから、その後わが国においても、ほぼ同様の改革が順次なされてきたことは周知のとおりである。

そこで、本報告では、グローバル金融の環境の中で、強固なガバナンスを目途とするとき、この会計・監査・ガバナンスの一体改革が意味するところについて、特に会計および監査の視点から検討することとする。